

Theme

クルマと眠る男の家 二段ガレージが作る新しい快樂

愛車のフォルムと呼応するツヤ消し鉄骨の空間を生活に引き入れてみると、
全く新しい暮らしの境地が開けていきます。



部屋の構成が解るようにファサード面を取り外したイメージ図。立体ガレージの吹き抜けを介して、家全体がすべて見通せる一体空間になっている様子がよく分かります。デイトナハウスのLGSシステム工法は原則的に2スパン=パネル2枚おきに間仕切り壁が必要になるため、間口が2+2+1のこの構成は、案外無駄がなくバランスのいいカタチと言えるのです。



ベッドルームから立体ガレージの愛車を眺める。緊張感のある艶消し黒の鉄骨骨格と流麗な愛車のボディラインの対比が極上の空間を創り上げます。立体ガレージは、ガラスで仕切られていて、クルマの奥のスペースにはシンプルな浴室とトイレがあります。必要な物だけを最小限にちりばめた、ハードボイルドな男の住まいです。

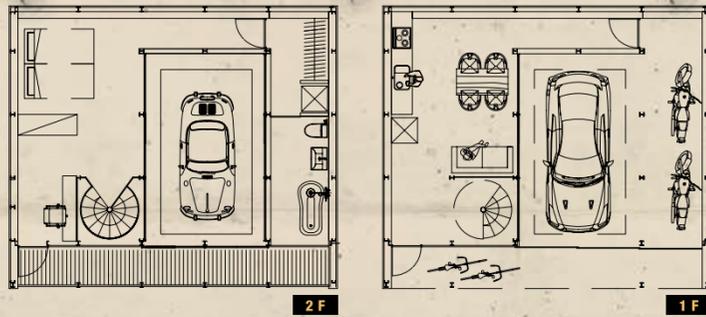


均整のとれた2+2+1スパンのファサード。最前面の上部には、「ブリーズソレイユ」と呼ばれる日よけのルーバーを配置。スチールと適度にあしらったウッドのコントラストで落ち着いた印象に。2Fにクルマのフロントが見える面白さと、そのリズム感がこの家の魅力。シンプルな外壁面に映りこむルーバーの筋状の影も美しいです。



この建物は、モーターライフを人生の中心に据える男にとって、必要かつ十分な面積であることが図面からよく読み取れます。1Fが3.5スパン×5スパンで17.5坪、総2階で35坪のインナーガレージ住宅。クルマ2台とバイク2台を美しく格納する合理的プランで、男が男として生きていくためのソリッド感をテーマに、必要な物だけを深く抽出した、都会で生きていくためのアジトともいえるモノ。向かって左側の上下階の居住スペースから、ガレージ空間がすべて見渡せる空間空間性、この家の最大の特長で、ガレージと居住スペースの分離を回避して、程よく一体化を演出しています。

FLOOR PLAN



INFORMATION
LDKinc.
デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

代表：玉田教士
WEB: www.ldk.co.jp
TEL: 03-6228-4933

DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP
www.daytona-house.com

納めますか？
の風情は、今まで語られたこともないでしょう。まさに新機軸、あなたなら、上段にどんなクルマを格納しますか？

もちろん1Fのガレージ空間にはバイクやギアの格納も可能。シャープな外観と2Fで顔をのぞかせる愛車の表情のコントラストが、この家の価値をさらに引き上げるのです。照明を落とした寝室からのクルマの風情は、今まで語られたこともないでしょう。まさに新機軸、あなたなら、上段にどんなクルマを格納しますか？

何度も説明してきましたが、デイトナハウスの最大の特長は、ツヤ消し黒の鉄骨の素材感と、クルマやバイクのフレームが共鳴する独特の空間性にあります。土地に余裕のある郊外型の立地であれば、ガレージの空間と生活空間を並列させるような余裕のある土地の使い方が許されませんが、土地の面積に制限がある都市型の住宅の場合はそうはいきません。1Fにガレージ空間を設けると、どうしても生活空間は2Fになります。それも悪くはないのですが、もっとクルマとLGSパネルの鉄感が共鳴する空間を味わい尽くしたいという願望も捨てられません。そこで今

What's Daytona House?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGSパネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かります。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

